

飛鳥寺出土文字瓦の調査成果 記者発表資料

2015年6月10日

奈良文化財研究所 都城発掘調査部 飛鳥・藤原地区

飛鳥寺出土文字瓦のうち、主なものを以下の通り展示いたします。

期間：2015年6月10日（水）から2015年9月13日（日）まで

会場：奈良文化財研究所 藤原宮跡資料室 奈良県橿原市木之本町 94-1 観覧料無料

開館日：展示替え期間中を除く 9:00 から 16:30 まで

展示に関するお問い合わせ先：奈良文化財研究所 飛鳥・藤原地区 0744-24-1122

今回の調査成果の詳細は、『奈文研紀要 2015』において報告いたします。

【本調査成果に関するお問い合わせ先】

奈良文化財研究所都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）(0744-24-1122) 清野孝之、山本崇

概 要

過去に飛鳥寺およびその周辺で出土した文字瓦の再調査をおこなった。

平瓦を指す「女瓦」の文字を刻む7世紀後半の文字瓦は、「女瓦」と記した最古級の文字資料である。「白髪部」と刻む文字瓦（7世紀後半か）は、瓦生産に関わった工人の集団名または氏族名とすれば、飛鳥寺の造営にともなう労働編成の在り方を考えるうえで興味深い。このほか、断定しがたいものの飛鳥寺創建期の可能性も考えられる文字瓦を確認した。

1 調査の経緯

飛鳥寺は崇峻天皇元年（588）創建の日本初の本格的寺院であり、その瓦生産には、百濟から渡来した瓦工人が深く関与したことが文献、考古資料から確認されている。飛鳥寺の発掘調査は1956・57年の中心伽藍の調査以降、奈文研が継続的に進めている（図1）。

これまで、飛鳥寺からは、ヘラ描き文字瓦（以下、文字瓦と表記）の出土が報告されている。そのうちの数点について、東野治之氏（奈良大学文学部教授）が釈読の可能性を指摘し、2015年1月7日に東野氏、当研究所の清野孝之、山本崇（いずれも都城発掘調査部）、狭川真一氏（公益財団法人元興寺文化財研究所）が調査を行った。現在、飛鳥寺出土資料の再整理を進めつつある飛鳥資料館では、未報告の文字瓦の存在を把握していたため、調査には同館の協力を得た。以下、既報告のものも含め、主要なものを報告する。

2. 文字瓦の内容

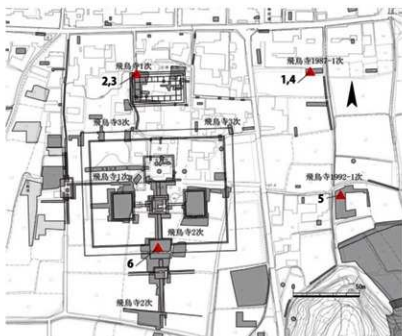
今回調査した文字瓦のうち、主要なものは下表の通りである（表中の番号は、出土位置図の番号および文字瓦の写真番号と一致）。

No.	取文	種類と部位	時期	備考
1	女瓦	平瓦凸面	7世紀後半	「飛鳥藤原京木簡」996・998（ともに削り）より広く、「女瓦」の最古級資料。「藤原概報19」（1989）
2	女瓦	平瓦凹面	7世紀後半	川原寺出土瓦と共通する特徴、川原寺創建期 瓦の製作にかかわった工人の集団名ないし氏族名か。奈良県飛鳥京跡第51次調査出土木簡「白髮部五」 ^{しろはやく} と同時期の「白髮部」の一次史料「般部」ならば、般網の一つか
3	白髮部/□□（髮部カ）	平瓦凸面	7世紀後半?	
4	二/止僧都□□（会少カ）	平瓦凸面	7世紀後半?	
5	飛	平瓦凸面	不明（飛鳥寺創建期?）	「飛」は、飛鳥寺の意か。「藤原宮木簡一」440号参照。創建期の平瓦に共通した特徴をもつものあり
6	多/多/多多名	平瓦凸面	不明（飛鳥寺創建期?）	別冊

3. 調査成果と意義

今回報告した文字瓦の多くは、7世紀後半とみられるものである。そのうち、平瓦を指す「女瓦」の文字を刻んだ1・2は、いずれも7世紀後半のものであり、「女瓦」と記した最古級の文字資料と位置づけられる。3の文字瓦に刻まれた「白髮部」^{しろはやく}は、瓦生産に関わった工人の集団名または氏族名とすれば、飛鳥寺の造営にともなう労働編成の在り方を考えるうえで興味深い。

なお、5・6については、断定しがたいものの飛鳥寺創建期の可能性も考えられる。（清野孝之、山本崇[いずれも奈良研都城発掘調査部]、東野治之[奈良大学文学部教授]）



今回報告した文字瓦の
出土位置図

